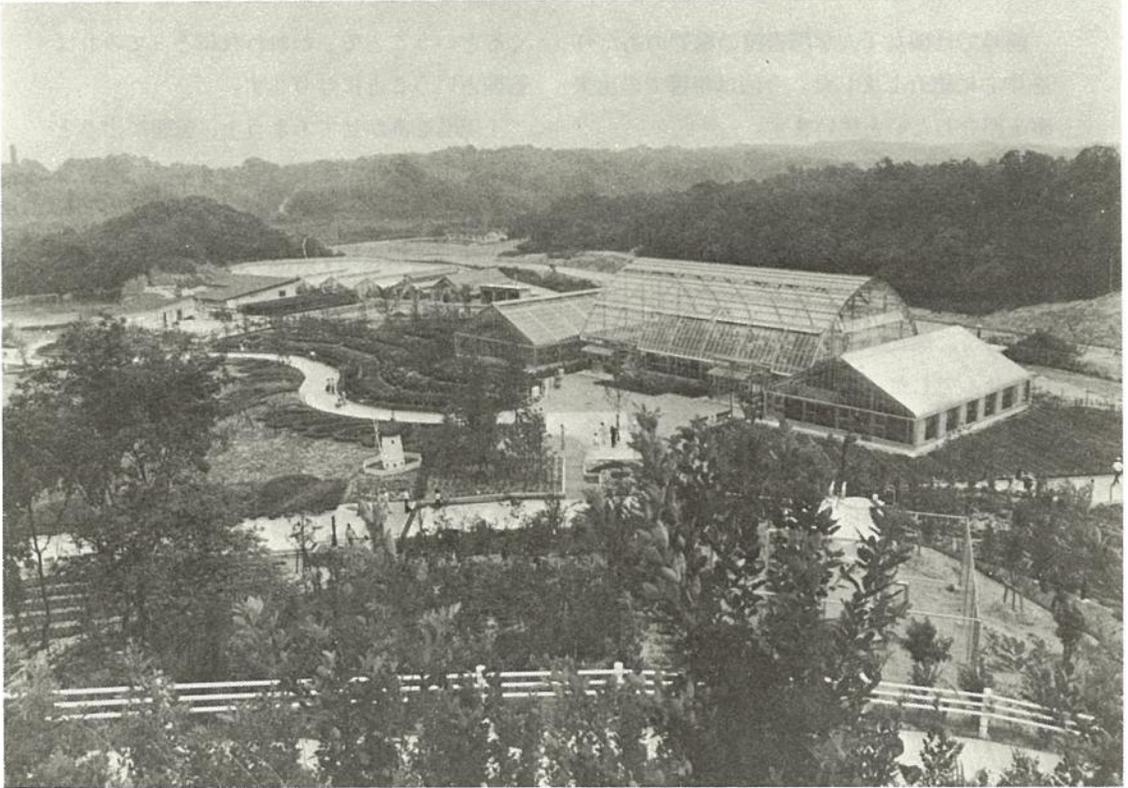


ARPA・K NEWS LETTER

地域計画・建築研究所



関西文化学術研究都市の最初の立地施設として、同志社大学とともに京都府花き総合指導センターがオープンしています。

アルパック ニュースレター も く じ

- | | |
|-----------------------------------|----|
| • みんなでつくった橘女子大学図書館—その2 | 2 |
| • きんきょう ○産業コーディネーターの復活をめざして | 4 |
| ○ 5月、6月の東西往来 | 6 |
| • 一知半解 ○地場産業・観光関連施設の現状と集客力について .. | 8 |
| • 都市のイメージ(その3)木の都 名古屋 | 11 |
| • まちかど ○ジャンボすべり台のある公園 | 12 |

No. 18

みんなで作った橘女子大学図書館

その2. 建築を織る

高坂憲治

前号では橘女子大学図書館の構想のあたりを中心に紹介しました。今回は現場での出来事を紹介したいと思います。

橘女子大学図書館の竣工式の当日、新図書館の建設に携わった人々の手に一冊の文集がありました。「冗談集」と書かれたその文集は、今流行のワープロを使って書かれたわけでもなく、様式が統一されているわけでもありませんでした。この文集に集まった人々の筆跡そのままに、縦書きもあれば、横書きもある。もちろん、誤字、脱字もそのままのこの文集は、金沢から来ていた電気屋さんの一言から生まれました。

「この現場は本当に楽しかったし、一生懸命仕事して愛着がある。できたら写真がほしいんだけどなあ。」

この現場は何か提案があるとすぐに検討され実行に移されます。即座に編集委員会が生まれ、「写真だけではつまらない。文集をつくろう。」ということになりました。このとき既に、皆の頭の中ではく出版記念パーティーが構想されているのです。

建築というのは最終的には、人によるわけです。多くの人々の知恵や、手を集めて、まとめあげていくこと、その全課程が建築することであるわけです。だから、まちづくりや、再開発などとまったく同じことです。

設計図書ができあがったとき、そこには既に様々の人の知恵や、期待や、思いがあるわけですが、全体からみるとまだ半分くらいで、その一部を前号で紹介させていただきました。残りの半分のうちの半分くらいが、建物をつ

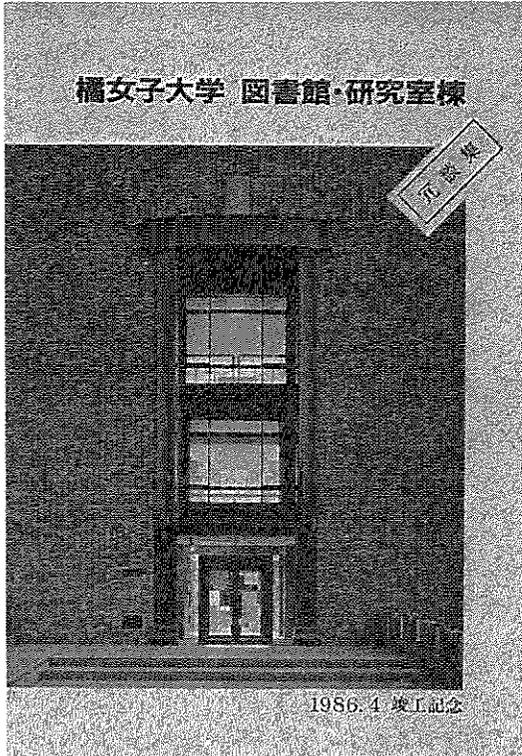
くるということで、われわれにとってみれば監理ということになります。

「現場を沸かせてみよう」、監理に出るとき、メインテーマを一つ決めました。現場もまた人ですから、人を沸かせるために多くの人の知恵を引き出すことが必要です。現場では、「知恵」は「技」に通じていますから、人の持っている最大限の「技」を引き出すことになります。そして、その「技」をつないでいくために、人と人とのつながりをつくり出すことも必要になります。

そこで、現場の常駐監理に出るとすぐに職人さんの名前を覚えることから始めました。職人さん達の名前は名簿でみても顔とは一致しませんから、現場の仕事をしているところで覚えることが必要です。職人さん同士が話をしているところへ首を突っ込み、顔と名前を一致させる。何十人いても毎日毎日繰り返されるわけですから自然と頭に入ってくるものです。但し、現場で呼ばれているのは通称が多いですから、本名を知らなかった人が何人も出てきてしまいました。例えば、職人さんが年上であろうが何だろが、「テー坊」と呼ばれていれば、その人は「テー坊」であるわけです。

名前を覚えるのと同時にあいさつをするわけです。強面のオニイサンでも何でも、とにかくあいさつしちゃうのがよろしいのです。

こちらが慣れていなければ、相手も慣れていませんから、最初はしっくりいかないこともあります。慣れてしまえばどうってことないわけです。そのうち陽に焼けた顔から白



橘女子大学 図書館・研究室棟

竣工記念パンフレットの表紙を使った 文集「冗談集」

い歯がこぼれ、言葉が出てくる。言葉はだんだん仕事の話になり、ああした方が良い、こうした方が良いと提案になっていきます。果ては、「ワシはどうもそれを良くないと思うから出来ない。」などと、反発を喰らう始末です。腰の座ったペンキ屋さんなどは、僕の決めた色が気に入らないらしく、「どうせ、きれいに塗るなら気持よく塗りたい。」といて再考を迫られてしまいました。

初夏の頃、誰からともなく大学の先生や職員の人達とソフトボールをしようという話が持ち上がりました。提案は検討され即実行に移されるのがこの現場ですから、大学の先生方に挑戦状が書かれ、大学の方でも「やろう、やろう」と本当に実現してしまいました。

大学のグラウンドを借りて、いざ試合という当日は朝から雨。それでも会う人毎に「今

日はやるんだろう？」その気迫に負けて思わず「うん。」と答えて空をみあげると雨だけはやみそう。そこで皆仕事そっちのけでグラウンド整備に専念しました。何しろスコップや砂や労働力は豊富だから、あつというまにグラウンドは試合のできる状態になってしまいました。

試合が終わって、打上がったばかりのコンクリートの下でささやかなパーティーを開き、施主にあたる教職員の方々、施行会社（元請）、下請の職人さん達、そして設計事務所と、建設に携わった人々が集い、いくつもの輪ができました。

翌日からは、遠くからでも現場をのぞいてみようという教職員の方も増え、できあがっていく図書館に一層の興味をもっていただけたようでした。それと同時に、新図書館をどのように創造的に運営していくかという議論の場も学内に生まれました。建設全体のうちの残った1/4がスタートしたわけです。

上棟式は、お願いして職長さん達の労をねぎらう会にさせていただきました。

建築は人によるわけです。人々が触れ、感じ、様々な生活行為の場となる建築は人によって、また、人の心によってできるわけです。建築するということは、様々な人やものを織りなす全過程であるわけです。

橘女子大学図書館が竣工したときに我々の手に残った一冊の文集もまた、そのようにして織りなされた建築の一部であったと思っています。

そして、最初から皆の頭の中にあつた〈出版記念パーティー〉は、その夜を徹して開かれたことはいまでもありません。

（こうさかけんじ 京都事務所）

産業コーディネーターの復活をめざして
 一下関地域おこしセミナーより
 山 辺 真 一

昨年の11月、NIRA(総合研究開発機構)の助成研究「地方都市活性化の方策」をテーマとした研究を下関において行い、その発表を兼ねた形で、

『地域産業おこしの実例を学ぶ』
 一下関活性化の方向をさぐる一

という地域おこしセミナーを4月26日、下関21世紀協会と当事務所(九州地域計画研究所)の共催でおこないました。これは、研究を進めて行く中で、とにかく何か具体的な行動を一つでも起こすという目的に基づいて実践したものでした。

研究の概要は以下のとおりです。

一下関の成り立ち一

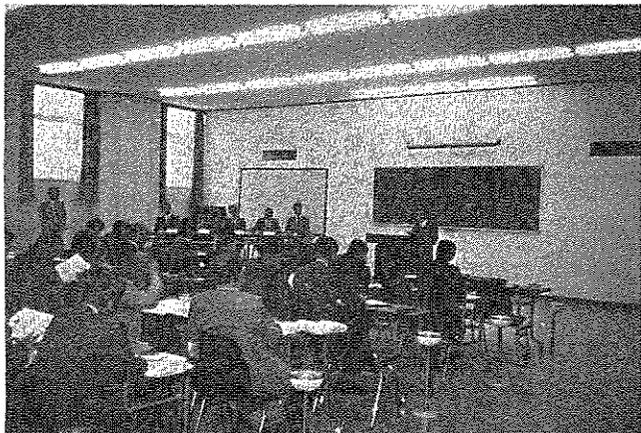
今回、研究の対象とした下関市は山口県の最西部、瀬戸内海の入口部分にあり、関門海峡の山口県側に位置しています。

この地は、古代から大陸への玄関口として、

また、「源平の壇の浦の合戦は西日本地域における交通拠点の争奪戦であった」(日本地誌)と言われるような交通の要衝として発展していました。

江戸時代は、北前船の西廻り航路の寄港地として「西の浪華」と言われるほど、人と物の集積する港町として繁栄し、明治期になっても、大陸貿易の基地、漁業の水揚げ基地、海陸交通の拠点などの交通商業都市としてその地位は益々高いものになっていました。とくに、水産物の水揚げ基地としては、大正時代の漁港の整備をはじめとして港湾整備に重点が置かれ、昭和初期には西日本一の漁港、戦後になっては東洋一といわれる程の水揚げ漁港となりました。さらに、港→船→造船といった、造船業を一方の柱、もう一方の柱を水産物加工業という2本の柱によって発展してきたのです。

しかし、昭和17年の関門鉄道トンネルの開通により、当市の交通拠点としての地位は低下し、さらに33年の関門国道トンネル、48年関門橋、50年新幹線の九州乗り入れなどの交通革命により、下関の海の玄関口としての役割が失われてしまいました。追い討ちをかけ



地域おこしセミナー会場風景

地域おこしセミナー

— 下関活性化の方向をさぐる —
「地域産業おこしの実例を学ぶ」

日時 4月26日(土) 午後1:30~4:30
場所 下関市観音崎10-6 山口銀行別館(下関21世紀協会事務局) TEL 0832-23-2001
共催 下関21世紀協会、ARPA・K ㈱九州地域計画研究所 TEL 092-281-2349

- テーマ
- ①地域産業と情報ネットワークについて
講師 阪 彰敏氏
略歴 昭和23年生まれ 薬局・薬店のボランティアチェーン・ファルマの創立に参画、60年ファルマ相談役就任、RSAネットワークグループ代表に就任し、情報ネットワーク(VAN)事業を行っている。その他に流通振興㈱代表取締役
 - ②異業種交流を通じた能力開発とホロン経営について
講師 佐野博持氏
略歴 ㈱ユニオン・エンジニアリング取締役社長、日本共同工業㈱取締役社長、全国中小貿易兵庫連盟理事長
 - ③日本インキュベーションの設立活動
講師 福野輝郎氏
略歴 昭和12年生まれ 奈良県出身 現在、フクノアンドアソシエイツ代表、ポートピア81'では、「テーマ」館展示プロジェクトに参画。神戸市、兵庫県のニューメディア委員会で活躍中。
 - ④HAN(ヒューマン・アクティブ・ネットワーク)について
講師 米谷富男氏
略歴 昭和16年生まれ 大阪市出身 現在、大阪通商産業局・公益事業部ガス事業課長補佐
 - ⑤下関一産業コーディネーターの復活を目指して
講師 糸乗貞喜
略歴 ㈱九州地域計画研究所 代表取締役、㈱地域計画・建築研究所 専務取締役

セミナー案内状

るように、40年代になっての漁業の低迷、造船不況により、下関の柱にすっかり奮われてしまいました。

— 再び、西日本の産業コーディネーターをめざして —

過去の下関の働きは、「港という立地条件を生かした産業コーディネーター」とも言えるように、運送業、商業、水産業、工業全てにおいてコーディネーターとしての役割を果たしていました。

物だまり→人だまり→コーディネーター

しかし、物だまりであった「港」の機能が弱まった現在は、「物だまり」という条件はないのですから、そうであれば「人だまり」からスタートして再びかつての下関の活力を取り戻す方法しかありません。

人だまり→コーディネーター→物だまり

— できることから始める —

以上が今回の研究の大方の内容ですが、この中で、とくに重視したことは、段階的実践計画の実施ということです。

余談になりますが、実はこのNIRAの研究を行う前の年に、下関市の市街地の中心にある国鉄細江ヤード跡地の利用計画を検討した際に、この地域のポテンシャルアップがまず必要であり、その手段としてヤード跡地を暫定的に活用する方法を提案しました。

つまり、地域のポテンシャルを上げるには、①あるものを生かす ②条件を良くする ③導入する という3つの原則に基づいて、やれることからやり、地域に力をつけて、新しいものを導入(マネをすることも含まれる)していく、そうすることが地域に人を呼び、

活性化の糸口になり、その際に大切なのは、地元の人が納得して行動を起こせるような、具体的なメニューが必要だということです。

そこで下関の話に戻りますが、「『人だまり』から始めるとは言っても、一体何から手を付ければ良いのか」ということに対しては、「とりあえず何かやっている人に話を聞けば良いのではないか」ということになり、その結果として「地域産業おこしの実例を学ぶ」というセミナーを実施した次第です。この他にもすぐにやるという実践テーマは挙げておりましたが、まだ実施にはいたっていません。おそらく近いうちには、実現するとおもいます。また、最近では下関でもいろいろなイベントが行われており、これらを継続することが大事になってきているようです。

なお、この時の講師の方々は関西方面で地域の産業おこしをいずれも実践的に行われている方たちで、情報ネットワークや産業フォーラムの仕掛け人と言われる人ばかりです。(セミナー案内状を参照して下さい)セミナーの詳しい内容は省略しますが、当日の会場には興味のある方々が結構大勢参加されました。

(やまべしんいち 九州地域計画研究所)

5月、6月の
東西往来

霜田稔

アルパック創立20周年を記念に、所内では、国際化の第1ステップが始まった。まず昨年事務局を担った「サイエンス・シティ」の国際シンポジウムの総括レポート作成で悪戦苦闘している。海外から建築家、都市計画家、科学政策コンサルタント、詩人、仏教研究者、日本文化研究者等が当研究所を訪問したり、

我が社が所有する都心のマンションに泊まったりしている。

○コロラド大学より建築学科教授 Eugene Venda氏(京大へ客員教授年令約60才)来洛。

コルビジェの弟子でシャンディガールの計画に参加。これまでに3回来洛。プロフェッションによる分断型の計画作成を廃し、かつ文化的高度のセンシビリティをもったデザインと都市景観のあり方を、たとえば河原町について過去、現在、未来の姿を上手なスケッチで示そうとしている。このスケッチも人、車や雲もはいた感情的な雰囲気を出している。どこかこの出版元を捜している。6月末帰国予定。

○マサチューセッツ工科大学(MIT)より友人の建築学教授 Gunter Nichike氏が6月来洛。

MITの学生を中心にスタンフォード、カルフォルニア大学の学生を含めて18人を連れて、京都、奈良でのSummer Seminarを開催、現在実施中。特に京都、奈良での保存と開発について日本人教師による講義と三条四条の川端のケーススタディ演習実施中。このセミナーで7月1日小生は、関西文化学術研究都市の計画について講義し、また当研究所の所員とMIT学生とのフリーディスカッションを行う予定。

Gunter Nichike教授は、軍太日家と日本名を持つほど、日本との関わりが深く、すでに25年にわたって日本の各地を歩き、また書道をし、正法眼蔵を翻訳する程に日本語が堪能である。今年は秋近くまで京都に滞在予定。

○6月2日～4日ハワイ大学より、社会学教

きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況

授 アジア太平洋地域研究センター東アジア研究科長 Mrs. Patricia Steinhoff 来洛。

日本の武家屋敷を解体して、ハワイ大学の日本学研究センターの迎賓館に再建するため実物評価とその歴史的意義についての事前調査で来洛、専門は日本の政治、特に左翼政党の政治について研究とのこと。日本語は完全に近いぐらいマスターしている。我々の研究所は、この武家屋敷の構造的耐用性の調査を分担した。6月5日帰国。

○スイスよりコンピューターエンジニア Sergio Mantvani 君が来洛。

小生の香港の友人の紹介。彼は、チュウリッヒで世界中の新聞のデータバンクのベンチャー企業を経営していたのを友人に引き継ぎ、今度日本の四国にある小さな禅寺に入門し、本格的な仏教の体験を試みるとのこと。今年42才独身。つい先日四国に旅たった。以後音信なし故に入門が許され、今頃多分雑巾がけと庭掃除をしていることと思う。

○20年前にチュウリッヒの建築事務所で建築家として小生と共に仕事をし、その後京大へ約3年程交換研究生として来ていたイタリア系スイス人のFranco Belltrami氏が18年ぶりに来洛。

今度は画家として、また詩人としての旅で来られた。彼は、京都で詩人、画家、演劇人、陶芸家、工芸家と積極的な交流を展開し、ヒューマン・ネットワークの構築を、短期間に成し遂げていった。5月15日帰国。

彼の息子Jonnaは、私が名づけ親であり、もう20才の青年であるが、生誕は京都、北白川バプテスト病院、小学校はサンフランシスコの山の中、中学校はテキサス、高校は南ス

イスの工芸高校、大学はカルフォルニヤとすでに世界をまたにかけている。3代にわたる国際的流民としての彼の親族コミュニティは、10ヶ国近い。

○インドより、科学計画管理等に関するコンサルタントであり、政治から文化、科学までの幅広い学識を持ち、どちらかと言えば、科学哲学者ともいふべき研究者でもあり、元インド科学技術開発国立研究所の所長であったAbdar Rahman氏が御夫婦で来洛。

6月13日大阪事務所で、また6月16日国際交流基金京都支部と共催で、第3世界からみた日本の科学技術政策について講演と討論の場を持った。

先生の主張は、科学技術開発が、再生不能な資源の浪費型にシフトしていて、再生の研究開発へのドライビング・フォース（牽引力）が弱いこと。第2に生産性の効率化の指向と合わせて、それを受け入れる条件の不整合が特に第3世界にみられること。第3に軍事研究が研究費の65%を占める程の不均衡な状況であること。第4に科学研究にたいする批判的、客観的評価の研究が相対的に不足していること。第5に先進国での少数の分野への集中による脆弱性の増大と第3世界での科学研究の停滞不平等の増大とイラン等にみられる原理主義への回帰の傾向。第6に第3世界の社会的目標が不鮮明となってきていること。そして第7に全体として、科学技術の研究のバランスが崩れつつあること等が指摘されていた。また討論のなかで我々が、インドをはじめとする第3世界について全体的、歴史的な認識がすこぶる後れていることが非常に明らかとなった。

(しもだみのる)

一知半解

地場産業・観光関連施設の
現状と集客力について

森 脇 宏

1. はじめに

地場産業と観光の振興を図るための施設として、各地に地場産業振興センターや伝統産業会館等の施設が、数多く建設されるようになってきた。昨年、この種の施設の事例を収集する必要があり、判る範囲でリストアップして、アンケート調査を実施した。ここでは、このアンケート結果から、この種の施設の現状と集客力について、若干のコメントを加えてみたい。

対象とした施設は、地場産業と観光の振興を図るための施設、及びその類似施設（公営・民営を問わず）とした。当然ながら、リストアップや回収率の制約から、全国のほとん

どの施設を把握したとは言えないものの、全体的な傾向は把握できていると考えている。

2. 地場産業・観光関連施設の現状

一言で地場産業・観光関連施設と言っても、様々な性格を有しており、(1)業種、(2)機能、(3)立地形態の3つの側面から各施設を分類することによって、現状を大づかみに把握することにした。ただし、把握している情報内で分類しているため、不正確な部分もあり得ることをお断りしておく。具体的な分類の考え方は、次の通りである。

(1)業種による分類

地場産業としては、織物関連・陶磁器関連等、様々な産業があり、どのような産業に関

表 1. 地場産業・観光関連施設の現状（業種、機能、立地形態による分類結果）

(Ⅰ. 総合型の分類結果)

A. 展示型は該当なし

	①単独立地型	②周辺依存型	③関連整備型
B. プラスα型	ジョイントプラザ久留米 山形県物産館 茨城県物産館 サンプラザ小千谷 都城圏域地場産業振興センター 高岡地域地場産業振興センター		
C. 多機能型	クロスTEN十日町	石川県観光物産館 三州足助屋敷 熊本県伝統工芸館 京都市伝統産業会館	八重山民俗園 九州湯布院民俗村

(Ⅱ. 織物関連型の分類結果)

	①単独立地型	②周辺依存型	③関連整備型
A. 展示型	シルク博物館 本場結城紬染織資料館“手織里”		
B. プラスα型	琉球かすり会館 北海道手織つむぎ優佳良織工芸館		
C. 多機能型	博多織会館 京都友禅文化会館 織物参考館“紫” アミティ丹後	広瀬かすりセンター	本場大島紬の里

連する施設であるかによって、次の4つのタイプに分類した。

- I. 総合型／複数の業種に関連している施設
- II. 織物関連型／織物に関連する施設
- III. 陶磁器関連型／陶磁器に関連する施設
- IV. その他／上記以外の産業に関連する施設
(こけし、和紙、組み紐等)

(2)機能による分類

ほとんどの施設は展示を主体にしているが、さらに販売・実演・生産・教室・訓練・研究等の機能を有する施設もかなりある。従って、次のように3つのタイプに分類した。

- A. 展示型／展示だけの施設
- B. プラスα型／展示に加えて、もう1つの機能を有する施設。なお便宜上、展示がなく、展示以外の機能を有する施設も含める。
- C. 多機能型／展示に加えて2つ以上の機能を有する施設

(3)立地形態

観光客等を吸引する関係から、周辺での観光資源の集積が重要なポイントとなる。この関係から、立地形態を次のように3つのタイプに分類した。なお、ここでの周辺の範囲は、徒歩圏域(概ね500m程度)としている。

- ①単独立地型／周辺に観光資源はなく単独に立地し、単独で吸引している施設
- ②周辺依存型／周辺に観光資源が既にあり、それに依存して吸引している施設
- ③関連整備型／周辺に観光資源がなかったが、当該施設の周辺に関連する施設をあわせて整備している施設

以上のような考え方によって分類した結果は、表1に示す通りである。

3. 集客力について

アンケートで年間利用者数を把握できたのは41施設であり、その結果は図1に示す通りである。年間10万人以上の利用者があるのは、14施設(34%)であり、どのようなタイプが

(III. 陶磁器関連型の分類結果)

	①単独立地型	②周辺依存型	③関連整備型
A. 展示型		益子参考館 土岐市美濃陶磁歴史館	
B. プラスα型	佐賀県立九州陶磁文化館 愛知県陶磁資料館	益子焼窯元共販センター 伊万里有田焼 伝統産業会館 熱海市姫の沢公園陶芸センター 寺井町九谷焼資料館	土岐市美濃焼 伝統産業会館
C. 多機能型			立杭陶の郷 丹波伝統工芸公園 越前陶芸村

(IV. その他の分類結果)

	①単独立地型	②周辺依存型	③関連整備型
A. 展示型	日本こけし館		博物館相当施設飛騨 民俗村・飛騨の里
B. プラスα型	わざの博物館民俗文化センター		
C. 多機能型	和紙のふる里 伊賀くみひもセンター 山中漆器伝統産業会館 若狭めのう会館	角館町伝承館	

集客力が強いのかを分析してみた。結論から言えば、当然のことながら前述の「Ⅰ総合型」・「C多機能型」・「③関連整備型」が強く、逆に弱いのは「①単独立地型」であった。

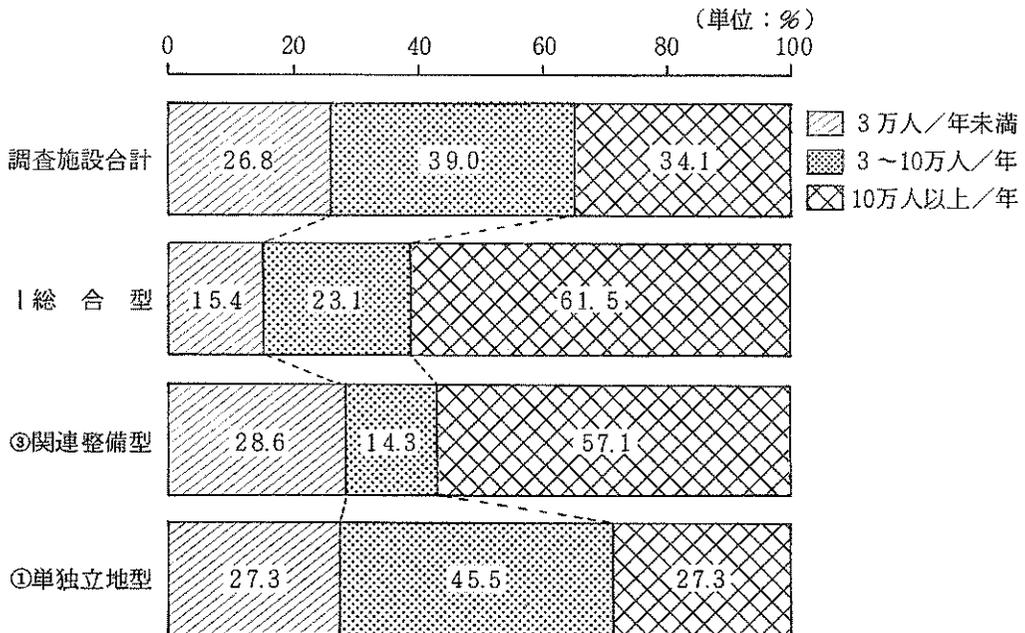
年間10万人以上の利用者がある施設としては、「Ⅰ総合型」で62%、「③関連整備型」で57%と多く、さらに、ほとんどが「C多機能型」であった。一方、「①単独立地型」では27%と少なく、しかも「Ⅰ総合型」がほと

んどであった。

以上、当然と言えば当然の結果であるが、ここまで明確に傾向が出るとは思わなかった。ただし、弱いと書いた「①単独立地型」の中にも、ユニークなテーマによって年間10万人以上の利用者を吸引している施設もあることも、最後に記しておきたい。

(もりわきひろし 大阪事務所)

図1. 利用者数ランク別施設の比率



注 (11ページより)

“NAGOYA”金しゃち連は、「もっと活かそう！みんなのお城」、名古屋の資産であるお城を活用・整備し、市民みんなで名古屋城の明日について考えようという会です。

尚、名古屋城本丸御殿の絵はがき5枚1組300円、同欄間のテレホンカード(50度)800円でお分けいたします。ご希望の方はARPA・K名古屋事務所“金しゃち連”事務局まで

都市のイメージ（その3）

木の都 名古屋

尾関利勝

前2回までの名古屋のイメージの展開の結論は「尾張の原風景・旧集落」と「水の名古屋」の2つのキーワードにまとめられます。

今回は少々歴史と産業にかかわるキーワードを模索してみます。

昔から尾張名古屋は城で持つと言われてきました。名古屋の街は徳川家康の命による築城（慶長15年 1610年着手）から始まったもので、同時に武家屋敷、社寺、町人町まで、ことごとく清須から名古屋に遷府しました。これを今でも「清須越」（きよすごし）と呼んでいます。

名古屋城は戦災によって大半を焼失したため、往時の姿を見ることはできませんが、日本の平城として最も進歩した時代の代表作と言われ、中でも本丸御殿は京都二条城の二之丸御殿と並ぶ書院建築の双壁と言われます。

御殿の各部屋に絵かれた障壁画のうち、現在約1,000点が残されている他、焼失前に行われた実測調査の図面が残っています。

名古屋城が名古屋台地（ほぼ都心部にあたる）の西北端に築かれ、築城のための資材運搬路として、熱田から城まで堀川が開削され、城の南に続く台地に城下町ができました。この城下町は明治までこの形が受け継がれ、現在の都心の原形となっています。

築城と遷府に始まる尾張藩は石高62万石に加え、木曾の御料林が与えられ、その結果、名古屋は木材の集散拠点ともなりました。堀川沿岸には白鳥の藩営貯木場をはじめ材木問屋が集積し、今でも多くの木材関連業が建ち並んでいます。

この豊富な木材資源がもとになって、製材業や家具業が起り、仏壇、山車、からくり人形などの伝統工芸が育ち、近代の合板業、時計製造業、楽器製造業、繊維などの機械工業、車両、自動車工業にその裾野を広げています。このように名古屋城の築城に始まる木の活用が、名古屋の産業と伝統文化の流れをつくる一つの柱になったことがわかります。

最近、名古屋の街を訪ずれる人達の多くから、緑が多いと言う声をよく聞きます。

名古屋にとって第2の都市づくりに当たる戦災復興土地区画整理事業によってできた広幅員道路を中心に、見事に樹木が育ち、緑が蒼々と生い茂っています。今、名古屋は樹と緑のまちの印象を強くしつつあります。

こんなところから、名古屋のイメージを今回は「木の都 名古屋」でしめくくる事にしました。（おせきとしかつ 名古屋事務所長）



名古屋城本丸御殿上洛殿一の間
(NAGOYA金しゃち連 絵はがきより…10ページ注)



同上、欄間

まちかど

ジャンボすべり台のある公園

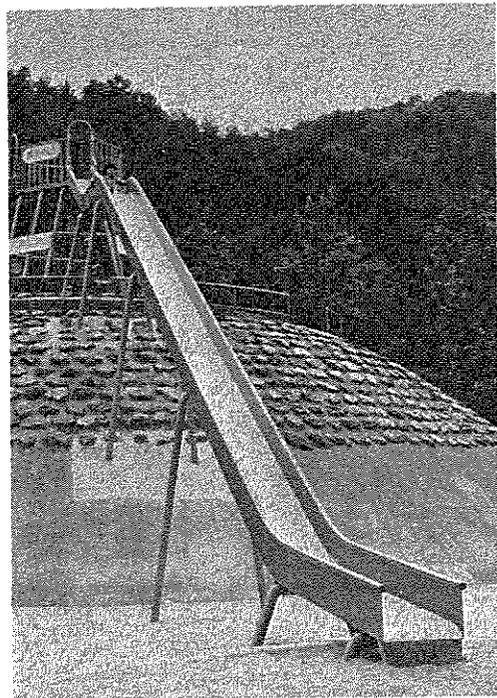
伊坂善明

公園の遊具というと、ブランコ、すべり台、シーソーなど、どれも似たりよったり。しかも、安全対策のためあまり奇抜なものはダメ。聞くとところによれば、公営住宅の児童公園で危険ということからブランコが禁止されているところもあるとのこと。

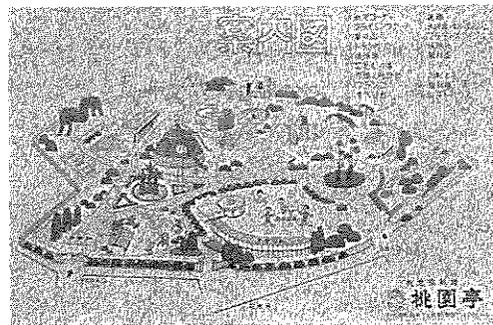
そんななかで、写真の公園は、15メートル程の高さのすべり台とか、複雑な形のジャングルジム、トランポリンなどが備えられている。ここでは、遊園地ではなくレッキとした市の公園。場所は京都市左京区宝が池の子供の楽園。日曜日ともなると、市内各地から家族づれで一杯。ふだん体験できないスリルのある遊具に子供も大人も大ハシャギ。

ここでは、昼間管理人がいて監視しているので、こういう遊具もいいのだとか……。子供たちのうれしそうな顔を見ると、もっとどこにでもこういうのがあればと思うことしきり。

(いさかよしあき 京都事務所)



ジャンボすべり台



こどもの楽園案内図

ARPA・K (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

- | | | |
|--|--|--------------------|
| 本
都
事
務
所 | 〒600 京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82
(大和銀行京都ビル8階) | TEL (075)221-5132代 |
| 大
阪
事
務
所 | 〒540 大阪市東区石町1丁目1番地
(天満橋千代田ビル2号館) | TEL (06)942-5732代 |
| 名
古
屋
事
務
所 | 〒460 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号
(ツボウチビル6階) | TEL (052)962-1224 |
| 九
州
地
域
計
画
研
究
所 | 〒810 福岡市博多区中洲中島町3-3 児島ビル3階 | TEL (092)281-2349 |
| 北
海
道
地
域
計
画
建
築
研
究
所 | 〒047 小樽市色内1丁目2番19号 通信浜ビル3階 | TEL (0134)29-1109 |